

特集 2

課題に向き合う「どうする」シリーズ 第1弾

どうする農業

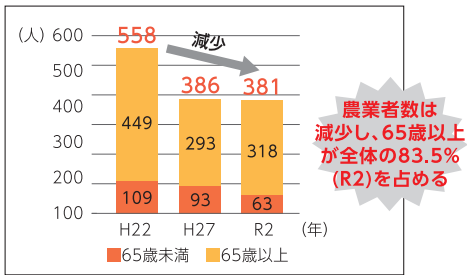
先端技術で持続可能な未来へ



対策が急務

市の農業の現状は、農業者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加等の問題があり、人口減少が進む中で、早急な対策が必要です。(表1)

(表1) 農業従事者数の推移



注) 米原市の15歳以上の世帯員のうち、普段仕事として主に自営農業に従事している基幹的農業従事者数です。 出典:2020年農林業センサス

未来のために

持続可能な農業の実現に向けた市の取り組みとして、若者や、移住者が農業を一から学ぶことができる「まいばら農業塾」を新たに開講し、担い手育成を目指しています。

さらに、農業と先端技術を組み合わせる「スマート農業」の普及にも取り組んでいます。

農業×先端技術

新たな農業として期待されるスマート農業は、ドローンやロボット技術を使った自動化や省力化、インターネットを活用したデジタル化など高度な農業

経営の転換を可能にします。そのため、市では、先端技術を学ぶ勉強会の開催や、「導入コストが心配」といった声を受けて導入支援補助金を創設するなど、スマート農業に取り組む農業者を応援しています。

スマート農業に希望

市内には既にスマート農業技術を導入している農業者がいます。(次ページ参照)

その効果は、省力化や効率化だけでなく、経験に関わらず一定のレベルで作業ができるなど、今後の経営にもプラスになるとして期待の声があります。

7/12(水)
締め切り

まいばら農業塾

新たに米原で農業を始めたい人必見!
農業経験不問で、農業に関する知識・実践・販売の喜びまでのノウハウを学ぶことができます。

定員 10人程度(応募者多数の場合は抽選)

受講料 2,000円

期間 8月上旬～令和6年1月

月1～2回(計10回) 土曜日 午前開催

内容 秋冬野菜の栽培を通じて土づくりから、肥料散布、農機具の使用法、収穫、販売方法などを基礎から学ぶ講座

詳しくはこちら



問 市 農政商工課 ☎53-5141 ☎53-5139

動画でも紹介!
市公式YouTube
チャンネル



伊吹山テレビ
6月23日号

農業×炭素

農業分野の環境負荷低減も大きな課題です。そこで、国から炭素先行地域に指定されている米原市は、市内企業と滋賀県と共同で炭素地域づくりを進めています。その一つとして、柏原地先で、遊休農地解消などを目的とした営農型太陽光発電^{※2}ソーラーシェアリング^{※1}設備の設置を進めています。

挑戦し続ける

スマート農業の普及や、新たな担い手の育成、農地を活用した炭素の取り組みなど、農業の魅力を高めることで、新たな価値の創造に挑戦していきます。

※1 スマート農業は、ロボット技術や情報通信技術を活用し、農作業の省力化や高品質生産を実現することを目的とした新たな農業です。

※2 ソーラーシェアリングは、農地に支柱を立て、上部空間に太陽光発電等の発電設備を設置し、農業と発電事業を同時に行うものです。

スマート農業 利用者へ聞く 先端技術の活用法



GPSを利用した直進アシスト機能付き田植え機と、従業員が増え、情報共有が難しくなってきたことや、作業日報の入力方法が大変との声を受け、フェイスファーム[※]による生産日誌の管理システムを導入しました。

このシステム導入のおかげで**従業員との情報共有**や、自分たちの**好きな時間に作業日報が入力できる**など、日々の作業管理が非常に楽になりました。

※従業員のスマートフォンから生産日誌が付けられるシステム。作付けの場所などを従業員同士で共有することができます。



農業生産法人
(有)ファームやまね
代表取締役 山根 左近さん



農業散布の作業軽減のため、農業用ドローンと、誰でもより簡単に、正確な機械操作ができたように、後付け式自動操舵システムを導入しました。

後付け式の自動操舵は、**疲労の軽減**だけでなく、他の農機具に付け替えるため、**コスト削減**にも繋がっています。

また、従来では田植えの時に目印を見るため、落水の必要がありましたが、今ではシステムのおかげで、水を張った状態で田植えができ、琵琶湖に流れる泥水を極力少なくすることができます。



(有)高橋農園
代表取締役 高橋 克治さん



いちごを栽培する際、米原市の天候を考えると、人の手でハウス内の温度管理をすることは難しいと感じ、自動化できる仕組みを考えました。

ハウスの屋根の一部に太陽光パネルを設置し、農作物を育てるソーラーシェアリング⁽¹⁾を導入したことに加え、センサーを活用して温度管理や水やり⁽²⁾などの栽培管理ができるので、**省力化**につながりました。

また、紫外線が発生させるUVBライト⁽³⁾も設置したことで、病害虫の発生を抑え、**減農薬**にもつながっています。



七夕いちご園
代表 北村 卓造さん



農地のほとんどが棚田のため、傾斜地での草刈り作業が大変でした。そこで、4集落(甲津原、曲谷、甲賀、上板並)の営農組合で機械の共同利用組織を立ち上げ、補助金[※]でリモコン草刈機を導入しました。

最大45度の急斜面での作業が可能で、1メートル以上ある草も刈り取ることができます。作業時間も通常の刈払機に比べ**約5分の1に短縮でき**、**作業者の安全性を確保**することもできました。

※中山間地域等直接支払制度の広域化の取り組みによる補助金



東草野集落協定
代表 吉田 徹さん